所謂空梅雨に就て

理學博士　藤原咲平

アメリカの方が尙ひどいと思ふが、とにかく、日本の諸新聞に現はれる學術の記事が、(學者の署名の無いものに限り)如何に無茶なものであるかと言ふ事は、一般讀者に知れて居ないやうに思ふ。自分も斯うした問題には始終惱まされてゐる者であるが藤原博士の此の一文を、非常に意味深い內輪話しと思つて讀んだから、こゝに紹介する。(山本)

◇長岡博士が昨年歐洲に遊ばれ到る處で歡迎せられた。新聞記者が來て水銀還金に就ての談話を求めた。博士は日本では滅多に新聞記者には應接せられないと思ひます——が向ふではそれ程でもなく、會つて一通り話された記者は筆記を始めたが、迚も本當には解らない事を覺つてもし誤ちを傳へては惡いからといふので、先生に書いて貰ひたいとお願ひし其書かれた原稿を翌日の新聞に出したといふ事を聞いた。社會の木鐸たるを自覺せらるゝ新聞記者としては苟くも誤謬を傳へる事を恐れるのは當然の事で左もあるべき事と思ふた。然し我日本の現狀はどうか。東京には餘りに新聞が多い。各社間で社會欄に於ける競爭は記事の正確を犧牲にして只ひたすらに他社より、早く早くとあせる。何も讀者が早い事のみを喜ぶのではない然し體裁好きの日本人は、他社が一度出した記事はほとぼりの冷める迄は出さない爲に、記者諸君は自分の取つた記事を廢り物にしたくないから、多少不正確の癖いは有つてもかまはずに出して仕舞ふ。此點に於ては記事の早きを競そはない日本新聞は全然他新聞に勝れて居ると思ふ。

◇記事、誤りでなくて、然も世間を誤る場合が非常に多い。それは見出しである。例へば見出しに『氣象學上の大發見』とあつたとする大方の讀者には此見出し丈が頭に殘る、所が其記事を讀んで見れば別に大發見でも何でもなく『東風が吹いたら雨になる樣に思はれる』と云ふた樣な平々凡々の事も時々ある。是れは記事を取つた記者が見出しを振らない、見出しを振る人は大體目を通して大つかみな、最も人目につき易い樣な見出しを付ける爲に見出しと內容とは多くの場合にくひちがう、此爲に世人を誤解に導く事がまた一と通りでない。

◇自分は今迄何年となく此種の誤謬に就て苦しめられて來た。然し新聞と云ふものは今の日本では先づ一番强いものであるから、新聞紙に不利益な議論や事實を指摘した所で、迚も其れが、世の中に發表せられる機會は得られない。今度は然し『日本新聞』なるものが思ひ切つて痛快に新聞の弱點だらうが何だらうがぐんぐん突つ込んで行くので、自分の多年の考へを發表した機會を得る事と思ふ。

◇恐らく新聞の天氣記事ラヂオとの天氣放送とを兩方聞いたり見たりして比較して下さつたら解る事と考へるが、新聞の社會欄の出る藤原博士談など云ふものに絕へず誤りが現はれる。記者諸君の中にも氣象臺へ出入して一年とか二年とかになる方々は滅多に間違はれないが、其樣な人は三四人であつて、他は新米の諸君や臨時の人達で中には低氣壓が何であるか丸で見當が付かないのに尙氣象臺の記事を取りに來る人すらある其勇氣は感心であるが、其禮古臺にされる小生としては悲鳴を擧げざるを得ない。氣象の本も多少は本屋にも賣つて居る。先づ其れ等に目を通して一應の知識を持つて來られるならば無難であるが我國人は遺憾ながら小說は讀んでも科學の本などは讀まない。殆んど新しく來られる方は大部分低氣壓の何たるかを知られない。

◇相當に心得て來てからにまた誤りが起る。氣象臺では責任を以て發表し得る事をば文句に作つて每日三回づゝ揭示する。此文句は例へば日日新聞なれば必ず欄外の底に出て居る國民新聞ならば天氣圖の上に組む。此文句を見て戴き度い。所が記者諸君の身になつて此樣な所謂玄關種では自分の手柄にならない。社では欄外へしか載せない——實は欄外が良いのであるが——本欄へ載せて貰ふには何とか夫れに色を付けなくてはいけない。夫れで

『太陽黑點はどうです』などゝ質問を發する、こちらは黑點の影響は有るには有るが迚も複雜であつて今の狀態が其關係であるかどうか斷言出來ない』などゝ答へる。すると『假りに影響があるとしたら今年の夏は熱いでせうね』と來るうつかり引つかゝつたらそれこそ今年大豐作などゝ出す『假りになどと云ふ事が解るものではない』と云ふと『夫れでは今年の夏は冷涼でせうか』と來る『其んな事は云へぬ』と斷ると冷涼を否定したから熱いと云ふたものと見做して『今年の夏は暑い』藤原博士談』と云ふ風なものが出來る。もし藤原談の中に、今年の農作がどうのこうのとあつたらばそれを以て其記事が與太である證據にして戴きたい。私は農作の事には決して觸れませぬ。而も夫がよくちらほら出るから驚くの外はない。後で、私が『困るぢやあないか』と云へば『あゝ書かなければ記事に魂が這入りません、あれがスピリツ・オブ・ツヤーナリズムです』と云はれる。誠に困つたものである。

◇今度の空梅雨だつて右の類である。六月の七日氣象臺の發表に於ては『オホーツク海方面の溫度がズンズン昇るから今年の梅雨は大して發達はすまい』と出した。此發表に對して或記者は『夫では空梅雨でせうか』と問ふたものもあつた、勿論答へは『其樣な事は云へぬ』と云ふのであつた。又『太陽の黑點の影響でせうかとも聞いた『さう何でもかでも黑點に持つて行けるものでない。大陽黑點の多い年は大陸の夏は溫度は高く冬は寒くなる。夫れ丈けは明言出來るが、日本は陸と海との中間にあり、陸地性の天候になる事もあり、太洋性の天候になる事もあり兩方の場合があり非常に複雜であるから、時間が經過した後綿密に調査したらば、或は其關係が見出されるかも知れないが、今直に此梅雨の黑點の因果關係を云々する事は出來ない』と極めて叮嚀に說明したものである。其處に居つた人達は大概は了解したらしかつたが、一足後れて來た通信社の人が、私の話を直接には半分しか聞かず、あとは其處に居つた他の記者にまた聞きをして記事を作つた此人の送つたのがすつかり誤りを傳へて國民新聞などは、いつも特に記者を派遣するのに、運惡く此日に限つて、此通信を其儘載せてしまつた。又中央新聞なども大々的に誤りを傳へた。朝日及日日も少しく間違つて出したが後で兩方共叮嚀な記事を出して、不言裡に訂正はした、初めから正しく出した新聞も多かつた樣に思ふ。然し世間では今年は空梅雨だそうなと速斷されたのが大多數で、其爲に噓かほんとか——新聞記事に米の値が騰つたとさへ云はれた。

◇此樣な間違ひは今度に限つた事でなくもう年から年中であつて迚もどうする事も出來ない。氣象臺は責任ある發表は文句を以て出して居るから、右の樣な記事に對しても決して正誤などはやらない。如何となれば、記者の書いた記事の責は新聞社にあるからである。又わづらはしくて澤山の新聞を迚も一々訂正などやり切れない。

◇只驚いた事には、此樣な間違ひが非常に多い事を讀者に知らなくとも新聞記者或は論說記者御自身は十も百も御存知の事と思ふて居つたが六月十五日の日本新聞は其の社としての一番大切であるべき論說欄に於て入梅と題し自然科學者が平氣で噓をつくと云ふて憤慨せられた。茲に於て小生たるもの大に驚かざるを得ない。評論の評論を出し、十六面棒を出し、眼光紙背に徹するが如き日本新聞の論客各位の中にも案外馬鹿正直の方もあると驚いた次第であるが、人間神樣でない以上まあ此位の事は有り勝ちであり、眞面目に考へれば、學者が噓を付いたか、記者が間違へたかどちらにしても『空入梅說の如實に傳播された事は、明かに日本生活の一弱點である』事に於て小生も大いに論客に共鳴するものである。噓に對する無感覺、之れは實に社會墮落の第一步である、佛國は否巴里ッ子は輕佻の如くに思ふ人もある。しかも尙其處の記者は誤りを恐れて、自らは長岡博士談を草するを差し控へた。どうか七千萬同胞よ。眞面目になつて戴きたい。新しきを追ひ速きをのみ貴ぶ輕佻な風を捨て、確實な事實を以て知識の糧とせられたい。浮かれる時には浮かれるも良からうが、我々は今は眞面目となければならない時である。年々利子丈けで一億數千圓の仕拂ひをしなければならない我日本は決して浮かれて居るべき時機ではあるまい。（日本六月二十日）

◎

あめつちに
我悲しみと月光と
あまねき秋の夜となりにけり。

—石川啄木—